

学生主導の移住情報プラットフォーム作りに関する調査・研究

- 福知山商工会館内旧喫茶店の再活用から考える地域課題 -

地域経営学部 谷口ゼミ 空き店舗チーム

竹内就人 (Takeuchi shuto) ・ 柳谷藍可 (Yanagiya aika) ・ 田中奏 (Tanaka Sou) ・
森田奈都美 (Morita natsumi) ・ 石原司 (Ishihara tsukasa) ・ 田口智也 (Taguchi tomoya)
(福知山公立大学地域経営学部地域経営学科)

キーワード：空きスペース、進学移住、持続的な活用

I. 研究の目的

福知山市内、広小路商店街に面した福知山市商工会館。その1階部分で営業をしていた純喫茶「ぼぶら」が2018年度末で閉店し、空きスペースとなっていた。広小路商店街は市内唯一の映画館や古くから続く老舗居酒屋が立ち並び、かつては大変な賑わいを見せていた通りだ。市内の商業を取りまとめる場所の1階部分が、お店が撤退したあと活用されていないという現状を打破できないかと福知山商工会議所より当ゼミにお話を頂いた。

空きスペースの見学や話し合いを続ける中で、「大学生を中心とした若者に、どうすれば福知山という街に愛着を持ってもらえるか」という課題が出た。全国各地から学生が集まり、福知山をはじめ北近畿地域出身の学生が少ないという大学の特性から、「生まれ育った街とは違う土地で、その地域との接点が得られる場」が必要とされている現状が挙げられた。メンバー6人のうち5人は府外から進学を機に福知山に移住してきた学生である。また、新生活当初は土地感覚に乏しく、大都市に比べて調べて手に入る情報も多くなかったと感じている点でも共通点が見つかった。

そういった私たちのような大学4年間のために移住してくる人、「進学移住者」をサポートすることで、福知山での学生生活をより豊かなものにすることができると考えた。その方法の1つとして生活に必要な情報のプラットフォーム作りを目標に調査・研究をスタートした。

II. 調査方法と経緯

1.1 調査方法

・聞き取り調査

対象者①：福知山市役所内で市外からの移住定住を支援する部署の方

対象者②：同じく「進学移住」をしてきた本学学生

1.2 調査経緯

専門的に広く移住者の支援を行っているであ

ろう福知山市役所担当部署に話を聞きに行くことで、具体的にどのような移住者支援の方法があるのかを知ることで今後の活動の大きな指針を立てられると考えた。また、実際の「進学移住者」がどのような問題を感じていたのかを調査することで、自分たちの仮定の整合性を検証した。

III. 調査結果

聞き取り調査①の結果

- ・前提として市の取り組む移住定住支援は、主に山間部への移住定住支援であり、基本的に市街地は不動産会社が担当している。
- ・移住を考える人の多くは文字や写真だけでは伝わらない生の情報を求める傾向にあり、山間部の空き家を利用した中長期の体験移住施策は好評を得ている。
- ・福知山への移住を考える情報のきっかけはほとんどがインターネットであり、移住定住促進の専用ホームページを作成したところ、問い合わせの件数も大幅に増加した。

聞き取り調査②の結果

- ・食料品店や飲食店などの基本的な生活に必要な店舗を知ってから地域のコアな情報に触れる機会が少ないまま生活している。
- ・慣れない土地で生活をはじめ、今まで当たり前と感じていたことが通用しないなど緊張感のある生活をしてきた時期があった。同郷の人がなかなか見つけられず、孤独に感じることもあった。
- ・就職活動をするにあたって自分の志望する業界で実際に働く方のお話を聞きたいと思っても、ツテがなく困ることがあった。

IV. 考察

大きな目標として、市全体を見て支援の手薄になっているところを自分たちで実現させたいと考えた。その中で市の移住定住支援が山間部中心になっていること、市街地は不動産会社が

担当していることが分かったが、その中でも市街地の生活情報という面では私たちが入り込む余地があるのではないかと感じた。市街地での不動産会社の立ち位置は物件のあっ旋が主であり、その他の部分は地域に関わる機会の多い人の方が適していると考えられる。また、催事の広報などと違い、福知山市外に住む人もメインターゲットに含まれるため、市と同じくインターネットを活用した発信が必要になることが想定される。

私たちと同じように移住先での生活で不安や困りごとを抱えていた学生は多く、改めて「進学移住」をする学生を支援する情報のプラットフォームに需要の可能性を感じた。

当初想定していた「移住直後の不安」とは別に、「就職活動での困りごと」が学生の抱える問題として挙げられた。これは大学生生活4年間のうち、1年次のみならず、2、3年次での需要も満たすことができると考え、持続的な活用という面で大きな意味を持つと思われる。

V. 今後の実践計画

現状では市の移住定住支援の取り組みや「進学移住者」からの声の情報をもとにした課題や必要とされるであろう物の仮説を立てたのみにとどまっておらず、活用したい資源の土地的な強みを活かす具体的な考えが出てきていない。商工会館の一部という点や商店街に面しているという点だけでなく、旧喫茶店の厨房設備など、活動の幅を広げることのできる要素は多く存在する。その資源をどう活用するかは今後の課題に挙げられる。

一方で持続的な利活用という観点では入学前後、つまりは移住の直前直後のみならず、学生同士の交流支援や地域と学生の架け橋作り、終盤では就職活動支援など、その時々で起こりうる「進学移住者」の不安をその都度取り除くことができるような活用方法を考えたい。

図1 プロジェクトの想定する全体像

挙げられた課題を解決するため、「移住者へ向けての情報発信」「移住者からの相談の受信」この2つの両立が重要になって行くということが考えられる。そのために土台となる必要とされるであろう情報を集約できるスペース、「進学移住者」支援のための情報のプラットフォーム作りをはじめに進めていく必要がある。

発信の面では、移住者に必要とされている情報をより具体的に洗い出し、その情報が本当に移住者の不安を取り除くために必要かどうかを精査する必要がある。また資源の土地的な強みを最大限活かす取り組みをどう作るか、そしてそれをどう発信するのかが課題となる。

ただし、移住者と情報をつなぐというだけに囚われず、移住者と定住者、人と人をつなぐ活用法を含めて柔軟に展開していきたい。

受信の面では、そのスペースに足を運べば実際に福知山で暮らす人とつながることのできる仕組みはもちろん、移住を考える市外在住の人の利用も考えられるため、インターネット上での情報支援の仕組みも考えていきたい。

その土台部分として移住者支援の情報のプラットフォームをどのように作るのかという内容面とどうやって作るのかという技術面、この両面から慎重に検討したい。

VI. 参考資料

福知山市移住情報ウェブサイト 京都 | 丹波 福知山移住 FUKUFUKU LIFE

(<https://www.welcomeiju.city.fukuchiyama.lg.jp/>)

福知山市商工会議所公式サイト

(<https://fukuchiyama.or.jp/>)



